

# 宮農フェア

## 農産園芸部門

### 農作業メモ

#### 早期水稲

1. 生育・水管理  
※間断灌水とし、収穫7日前までは湛水状態を保ちましょう。
2. いもち病・カメムシの防除  
※管内での等級低下の原因はカメムシ被害です。大型カメムシは、登熟後半まで食害します。
3. 収穫前防除の徹底  
※収穫7日前まで散布できます。スタークル液剤10 1000倍 100ℓ以上/10a
4. 収穫適期  
※収穫適期は、全粒の80～90%が黄化した時期です。適期前に収穫すると、高水分・青未熟粒の増加により品質が低下します。

【問い合わせ先】  
営農指導課 TEL 27-4504  
普及センター TEL 43-2311

#### ハウス胡瓜

1. 整枝について  
一度に4本以上の枝を摘むような摘芯は避けてください。3枚以上展開した生長点を3～4本残してください。光が当たるように誘引・枝の整理を行ってください。今後は高温により草勢が低下するため、収穫ピーク前の摘芯は控えましょう。
2. 摘葉について  
老化葉・病葉だけではなく、採光や通風を

妨げている葉は、摘葉を行きましょう。又、摘葉と同時に不良果の摘果を行い草勢の回復を図ってください。

#### 3. 灌水について

晴天で暑い日が続いていますので、毎日灌水を行ってください。10a当たり3t前後を目安に液肥（初期は薄め）と合わせ灌水を行ってください。又、通路や畦のかたが乾いているようであれば排水を考え水分過多にならないよう通路へ灌水を行きましょう。

#### 4. 防除について

病害（べと病・炭そ病）、害虫（ウリノメイガ・アブラムシ等）の防除を定期的に行いましょう。特に、きゅうり黄化えそ病（MYSV）の媒介であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底してください。発病株を発見したら、拡大防止のため抜根してください。アザミウマ・コナジラミの発生が散見されており、防除ローテーションを行い、予防防除に努めましょう。

#### ニラ

高温期に入り、病害虫、病気が多くなってくる時期です。乾燥条件下ではスリップスの発生を助長します。少量多灌水を心掛け、事前防除の徹底をよろしくお願いします。また、高温多湿条件下で白絹病や軟腐病などの病気も発生しやすくなっていますので事前防除の徹底をよろしくお願いします。

#### トマト類

土壌病害虫の防除及び除草対策として、改良陽熱消毒法や土壌還元消毒法で土壌消毒を行ってください。特に改良陽熱消毒法は、省力・低コストであり、夏場の作業軽減及び定植準備作業の効率化などの面からも有効性が高くなります。また、土壌分析は必ず行ってください。（溜水を行って水が引いた後に採土する） unnecessary 肥料の投入は経費がかかる

だけでなく、作物に悪影響を与える場合もあります。ハウス回りの除草を徹底しコナジラミ・トマトキバガの防除を行ってください。苗への防除と同じく圃場準備が完了した時点で圃場内の防除も行ってください。

#### イチゴ

萎黄病・炭疽病の予防・防除を徹底してください。また、予備苗を十分に確保し、感染株に関しては早期発見に努め、防除・廃棄するなど病気が広がらない様に適切な対応を心がけましょう。親株は多くの肥料が必要で、肥培管理とあわせて水管理にも十分に注意してください。

#### ブドウ

バック詰め・箱詰めの際は、裂果・病害果は全て摘除するようにしてください。今年は梅雨入りが早く、降雨は少なく裂果も少ないが、時折の晴れ間で高温状態になり日焼けや萎れが発生しています。これから降雨が増える予想の為、出荷や箱詰めの際には十分注意してください。収穫終了後については、土づくり、施肥改善、合理化のため全園の土壤診断を実施してください。

#### キンカン

満開から1ヶ月間は、0・5mm/1日程度果実が肥大します。たっぷりとかん水を行ってください。ただし、排水の悪い圃地では少量のかん水を多回数実施してください。乾燥防止には敷きワラが効果的です。今年は、着花が早く摘み取っている為、早めの遮光・遮熱資材の被覆とビニル除去を行い、「ス上がり」対策を行ってください。また定期的な葉水・かん水を行うことで蒸散による水分不足を補います。この際は、黒点病に注意し、黒点病の防除を行ってください。

### 乾牧草即売会を開催



乾牧草の積み込み

6月25日、資材課は川南中央検査場と都農資材センターで乾牧草即売会を開催しました。これはJA自己改革の取り組みの一環として、組合員の皆様に少しでも安価で提供するため年に数回開催しています。今回は、オーツヘイ（スーパープレミアム）、アルファルファ（ハーブプレミアム）、US産チモシー（2番刈りプレミアム）の3銘柄を通常価格の約5%引きで販売し、33名の生産者が合わせて68tを購入しました。購入した生産者は「少しずつだが飼料価格も下がってきている。畜産情勢は厳しい状況だが、頑張っていきたい」と話しました。オーツヘイについて豪州では歴史的な干ばつ（過去100年で最低の降水量）に見舞われており、11月頃の収穫は収量・品質の低下が懸念されています。北米産のアルファ、チモシーは刈り取りが始まっており、1番刈りは降雨の影響で品質が低下したものの、2番刈り以降は順調で高品質なものとなっています。次回の即売会は、8月下旬に開催を予定しています。